

高雄だより臨時号

後期学校評価アンケート 結果と分析

令和2年3月2日

京都市立高雄小学校
校長 坪内 昌子

今年度の学校評価アンケートでは、昨年度の学校評価アンケートの項目を整理し、できるだけ、児童・保護者の実現度を比較し関連づけられるよう試みました。

【確かな学力について】

高雄小学校では、学力向上を図ることを今年度の大きな柱におき取組を進めています。朝の学習や帯タイムでの基礎基本の定着を図る時間を確保し、繰り返し学習することで、習得率が高まる計算や漢字学習などを中心に実施しています。

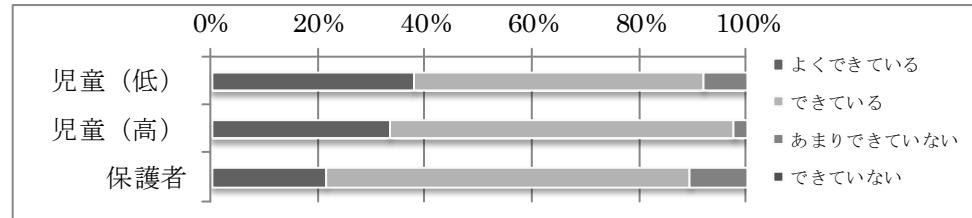
【質問①】は、学校での授業について ~わかる・できる授業~

低学年…わたしは、べんきょうしていることが わかっています。

高学年…わたしは、学校の授業がわかっています。

保護者…わが子は、学校での学習内容がわかっている。

低学年で約92%，
高学年で約97%の子どもが、授業がわかっていると答えています。
一方でわからないと感じる子どもは、低学年で約8%，高学年で約3%という結果になりました。



ジョイントプログラムなどの結果から見ると、少しづつ学力が向上していると感じますが、まだまだ、定着することに弱さを感じます。1時間1時間の中で学んだことは理解できたつもりであっても、定着とまでは至っていない様子です。

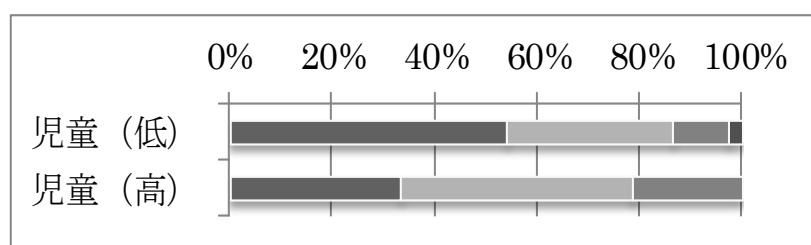
今後、定着をどのように図っていくのかが、来年度に向けて大きな課題と言えます。子どもの学びたいという思いを喚起しながら学習を進められたらと思います。

【質問③】は自分の考えを話すことについて ~合意形成と意思決定~

低学年…わたしは、せんせいや ともだちに、じぶんの かんがえを はなしています。

高学年…わたしは、先生や友だちに、自分の考えを伝えています。

本校は特別活動の研究に入っています。テーマは「主体的・協働的な学びの構築・学びに向かう学習集団の形成」です。その中で、特に大切にしているのは、合意形成力と意思決定力の育成です。学級活動の話し合い活動において、学級や学校におけるより良い生活づくりへの積極的な参画をめざし、子どもたちが自ら問題を発見し、その解決方法について話し合い、折り合いをつけて、集団として合意形成を図ることをねらいとしています。



そのようなねらいのもとに、特別活動の時間を中心に学習を進めてきた結果、できている以上の回答をした児童は低学年で約87%，高学年で約79%という結果となっています。しかしながら、できていないと回答する児童が低学年で約13%，高学年で約21%います。個々の考えに丁寧に寄り添いつつ、安心して自分の考えを伝えられる環境をこれからも大切にしていくことの必要性を感じています。

今後も主体的・対話的に問題解決を図る学習を進めていく中で、個の想いや考えを大切にし、確かな学力の定着を図っていきます。

【豊かな心について】

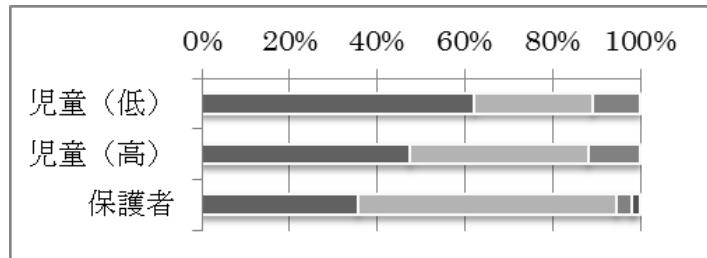
【質問②】学校で仲良く過ごせているかについて ~自尊感情を育む~

低学年…わたしは、だれとでも なかよく すごして います。

高学年…わたしは、だれとでも、仲良くすごしています。

保護者…わが子は、学級の友達と仲良く過ごしている。

「学校で仲良く過ごせているか」については、低学年は89%，高学年では約88%ができると回答する一方で、高学年の中には、そう思わないを感じている子どももいます。また、保護者は「わが子は、学級の友達と仲良く過ごしている」と回答している家庭が約94%でした。



学校でも、学習や学級活動、たてわり活動などを通じて、一人一人が周りから認められ、自分は大切にされていると感じるだけではなく、自分自身が大切な存在であるという自己有用感を抱けるよう育んでいます。「自分を大切にできない人は、周りの人を大切にすることが難しい」と言われますが、まずは、自分自身を大切にすること。そして、さらに自分の周りにいる人たちとどのように仲良く過ごしていくかをこれからも学んでいってほしいと願っています。

また、低学年で約11%，高学年では約12%の子どもたちが仲良くすごせていないと感じています。すべての子どもが相手のよさを見つけようと努め、互いに協力し合い、時には互いに指摘し合うなど、仲間を大切にする取組を進めています。その中で、自尊感情を高め、自分の力を学級全体の為に役立てようとする風土を作り上げる学級経営を、来年度も進めていきたいと考えています。

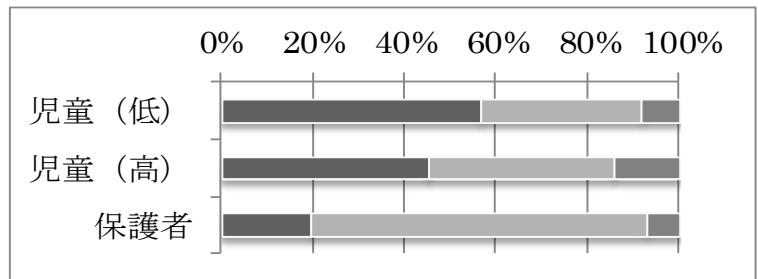
【質問③】思いやりの心などについて ~共に生きるということ~

低学年…わたしは、ともだちが こまっていたら やさしく こえをかけています。

高学年…わたしは、友だちが困っていたら、やさしく声をかけています。

保護者…学校は、思いやりの心・考える力・たくましい子を育てている。

思いやりの心については、低学年で約92%，高学年で約86%の児童ができると回答しています。逆に、高学年で「できていない」と感じている子どもが約14%近くいるという結果になりました。あいさつの項目では、低学年、高学年ともに約20%の児童ができるないと回答しています。クラス替えのない中、多くを言わなくても、また丁寧に言わなくても伝わるという気持ちから、短い言葉でポンポンと話してしまうこともあるためと考えられます。少ない人数であるからこそ、あたたかい言葉かけができる関係を、まずは1日の始まりでもある、あいさつをすることから大切にすること筑いていけたらと思います。



全ての教育活動の中で、共によりよく生きるために、お互いの生き方や価値観の違いを認め合い、そのよさを伸ばしつつ、共通して守るべきものはしっかり身に付けていく教育の実践を進めています。とりわけ、毎月実施している「ともだちの日」の取組では、すべての子どもが様々な特性についての理解と認識を深め、互いを尊重し共に成長し合う教育を推進しています。

そんな中、「そのくらい大丈夫かな?」「いつものことやし・・・。」と周りの人が困っていても、見て見ぬふりをしてしまうのではなく、高学年だからこそ、相手意識を高めて生活していくことで、これまでよりもお互いに気持ちよく学校生活を送ることができるものと考えます。

また、できていないと回答されている保護者の方が約7%ありました。これは、学校の取組が不十分だと感じておられることの表れだと思います。「一人一人を徹底的に大切にする。」という教育の根本をもう一度教職員一同再確認し、日々の取組に生かしていきたいと思います。

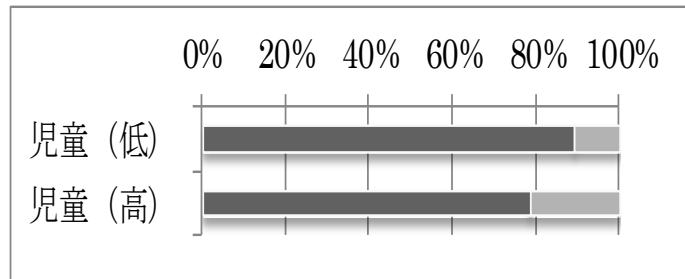
【健やかな体について】

【質問③】登下校や遊びに行くときの安全について

低学年…わたしは、とうげこうやそとにあそびにいくときなどは、あんぜんにきをつけています。

高学年…わたしは、登下校や遊びに行くときなどは、安全に気を付けています。

自分の命を守る「安全」についての項目に注目してみました。結果として、低学年、高学年ともに前期より「できている」という回答が増え、100%に及んでいます。しかし、実際には、心配に感じる場面が何度かあり、学校でもその都度繰り返し指導をしています。



登下校時は、ルールが守れなくなっていると
いう話を耳にします。信号や横断歩道のないところを横断し、運転手さんに迷惑をかけたり、歩道を守るガードレールの車道側を歩いたり、友達との会話に夢中になり、つい2列になって歩いてしまったり、…。
また、登校時にはしっかりと着用している黄色帽子が下校時には見られない児童が増えてきています。交通安全教室等で、黄色帽子は、自動車のドライバーから見て「小学生や！」と、すぐに認識してもらえると同時に減速してもらえるものと聞きました。とても重要なものです。

「これまで事故にあっていないし…。」「髪型が崩れるから…。」など、子どもたちが「これくらい大丈夫や」と勘違いしてしまっては困ります。

アンケートの結果は、良い方向ではありますが、もう一度、安全については見直し、学校での道徳、学活、総合的な学習の時間に、学習の中で考え、子どもたちの安全意識を高められるようにしていきたいと思います。自分の命は自分で守れる子どもを育んでいきたいと思います。

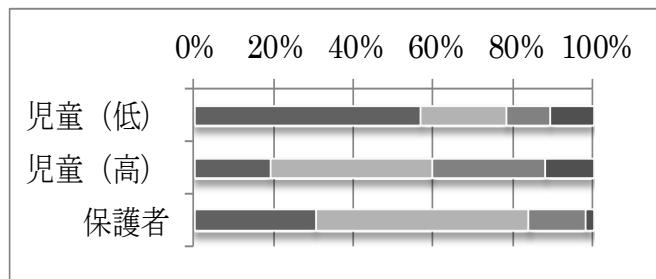
【学校と家庭・地域との連携について】

【質問②】地域との連携について～持続可能な開発のための教育～

低学年…わたしは、ちいきのぎょうじに
すすんでさんかしています。

高学年…わたしは、地域の行事にすすんで
参加しています。

保護者…学校行事や参観日、地域行事には、
よく参加している。



地域との連携については、低学年で約78%の子どもたちが「参加している。」と答えています。高学年では参加していると答えた割合が約59%となりました。

本校の取組の一つとして、地域の行事に積極的に参加し、地域とのつながりをより深めるだけでなく、ESD（持続可能な開発のための教育）に関する研究を生活科や総合的な学習の時間の中で進めています。その中で、地域の方々の想いや自然や文化についてより深く知り、そこに住む地域の方々の生き方について共感し、地域を愛し、誇りに思う子どもたちを育てていきたいと思い、研究を継続しています。

ESDの取組をさらに充実させ、子どもたちの自発的な学びから、より地域に根差した学習を進めていくようにしていきたいと考えています。